

図Ⅱ-1 コミュニケーション支援についての取り組み

(原 田 絹 子)

3. 研究の内容及び取り組み

(1) 授業研究 「わかる」朝の会

朝の会は、各クラスで年間を通じて毎朝行っている活動である。そこで、子どもの「わかる」を大切にしたい授業としてまず初めに各クラスの「朝の会」を取り上げ、学部全体で活動内容や支援の再検討を行った。

方法としては、各クラスで学習指導案を書き、研究授業を参観し合い、授業整理会を行った。各クラスの取り組みで良かった点、改めたらよい点を話し合い、クラスごとに取り入れられる所は取り入れようと確認し合った。小学部全体としては、給食の献立カードの作成をしようということになり、教材作りの作業を行った。

取り組みの内容は以下の通りである。

① 主な目標の再確認

- ・ クラスの友だちや教師と顔を合わせることで、一日の始まりであることを意識する
- ・ 音楽や歌で意欲的で元気な一日を始める
- ・ 一日の活動の内容や流れを知り、見通しをもつ
- ・ 挨拶や返事、起立、礼ができる
- ・ 当番の活動に自主的に取り組む

② 教材の工夫

これらの目標の中で特に「一日の活動内容や流れを知り、見通しをもつ」を達成するために、音声言語や文字だけでなく、写真カードや絵カードなどの視覚的支援を多く用いることとした。具体的には次のようなものである。

- ・ 時間割カードの文字（ひらがな、カタカナ、漢字）に写真や絵や色の手がかりをつける
- ・ 給食の献立は、絵カードや写真カードで提示して目で見てわかりやすいようにする
- ・ カードを選択する場面ではミニホワイトボードを用意し、選択肢のカードを貼り子どもの目の前に提示するなど注目しやすく選び取りやすくする

③ 支援の視点の共通理解

- ・ 視覚刺激をシンプルにするために、黒板まわりや板書を整理し、どこに注目したらよいのかをわかりやすくする
- ・ 選択カードの提示等は、子どもが注視しやすい出し方（活動の流れに沿って教材を見や

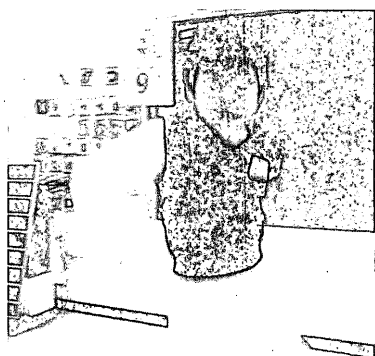
すい位置に出したり片付けたりする) や、子どもの目線を意識した高さ・距離を配慮して行う

- ・子どもに応じた課題の設定のために、活動の役割分担(日付や天気をなぞる・書く、カードを貼る、日めくりカレンダーを破る) や選択肢の工夫を行う
- ・教師の補助の程度を個々の子どもに合わせて変える
- ・通常と異なる活動の予告を丁寧に行う
- ・必要であればVOCA等の使用を試みる

この取り組みを通して、朝の会の中で子どもたちが意欲的に参加する姿が見られるようになってきた。例えば、今日の予定の場面では、写真カードや絵カード等を合わせて用いることで、教師が伝えようとしていることが子どもたちに「わかりやすく」伝わり、時間割カードの選択がより興味をもって行えるようになってきた。また、絵や写真で具体的なイメージをもちやすくなった給食の献立の話をも、期待感をもって見聞きする姿がみられるようになってきた。

朝の会を研究授業に取り上げることで、教師自身が「わかる」をより意識して朝の会を行うことができた。また、各クラスの様子を話し合う中で他クラスの特徴ある取り組みを参考にするなど触発される部分もあった。朝の会の大切さを改めて確認することができ有意義であった。

〈朝の会の流れ〉



歌
朝の歌で、にこにこ
元気パフォーマンス



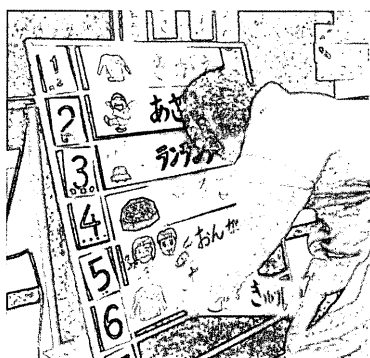
日付・カレンダー
「今日は○月△日
□曜日」



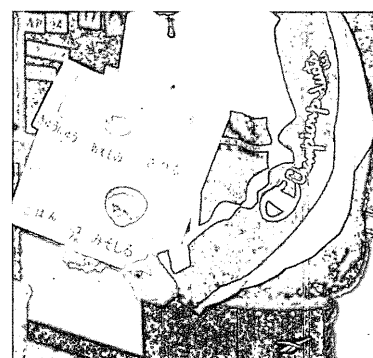
天気
「雨はふっていません
天気は・・・晴れ」



当番
ミニホワイトボードから当番
の友だちの写真カードを選ぶ



予定
日課カードをペッタン



給食の献立
「今日の給食はごはんのみそ汁と・・・」

(能村重信)